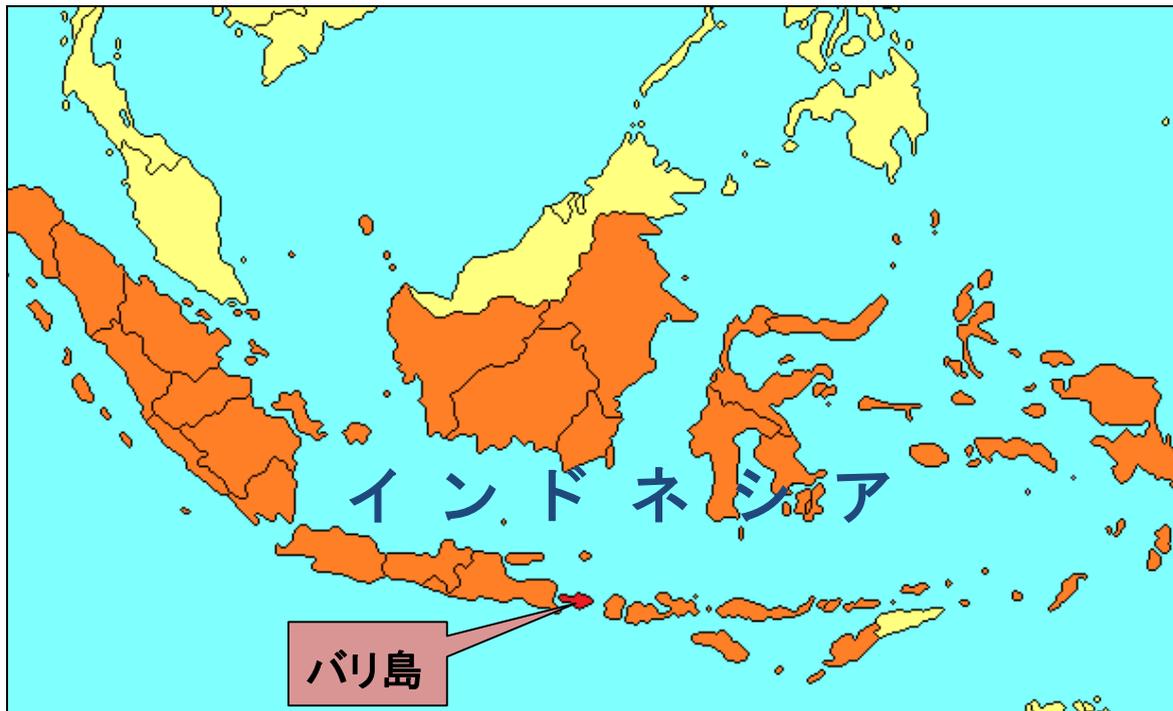


インドネシア バリ島の狂犬病発生状況(更新 2)

2010年8月24日 ProMED 情報(Jakarta Globe)



8月23日、バリ島の公式発表によると、狂犬病で新たに2名の子供が死亡しました。これにより2008年11月からの死亡患者は78名に達しました。死亡した2名(5歳、13歳)はBuleleng地区に住んでいました。

現在、非公式の死亡患者数は85名ですが、これには他に7名が含まれています。この7名は狂犬病の症状がありましたが、剖検は行われませんでした。

バリ島でイヌにかまれる事故の数も増加しています。8月24日、Karangasem地区で、犬を扱う獣医を含む5名が犬にかまれました。2名の犠牲者がデンパサール Denpasar の Sanglah 総合病院で処置を受けましたが、狂犬病ワクチンの在庫切れで、曝露後接種を受けられませんでした。Tabanan 地区では17名が犬にかまれました。

狂犬病ワクチンは、島中のリゾート地で不足しています。デンパサール地区、バドゥン Badung 地区、クルングン Klungkung 地区、Karangasem 地区、および Bungli 地区ではワクチンの在庫切れが確認されています。

今年はこれまでイヌにかまれた事例はすでに36,000件となりました。昨年は1年間で24,000件でした。最近、世界保健機関(WHO)から2,600回分のワクチンの提供を受けました。中央政府からの18,000回分の提供に加え、来月には、15,500回分をWHOから提供される予定です。

〔ProMED 調整者〕 狂犬病発生状況は改善が見られません。イヌによる咬傷事故とヒトの死亡患者数は増加しています。曝露後接種用のワクチンは依然として不十分です。現在、犠牲者は地元住民で、同島への旅行者における狂犬病の報告はありません。しかしながら、旅行者へ事前に同島での狂犬病の状況について予め警告を行うとともに、適切な予防措置をとる必要があります。